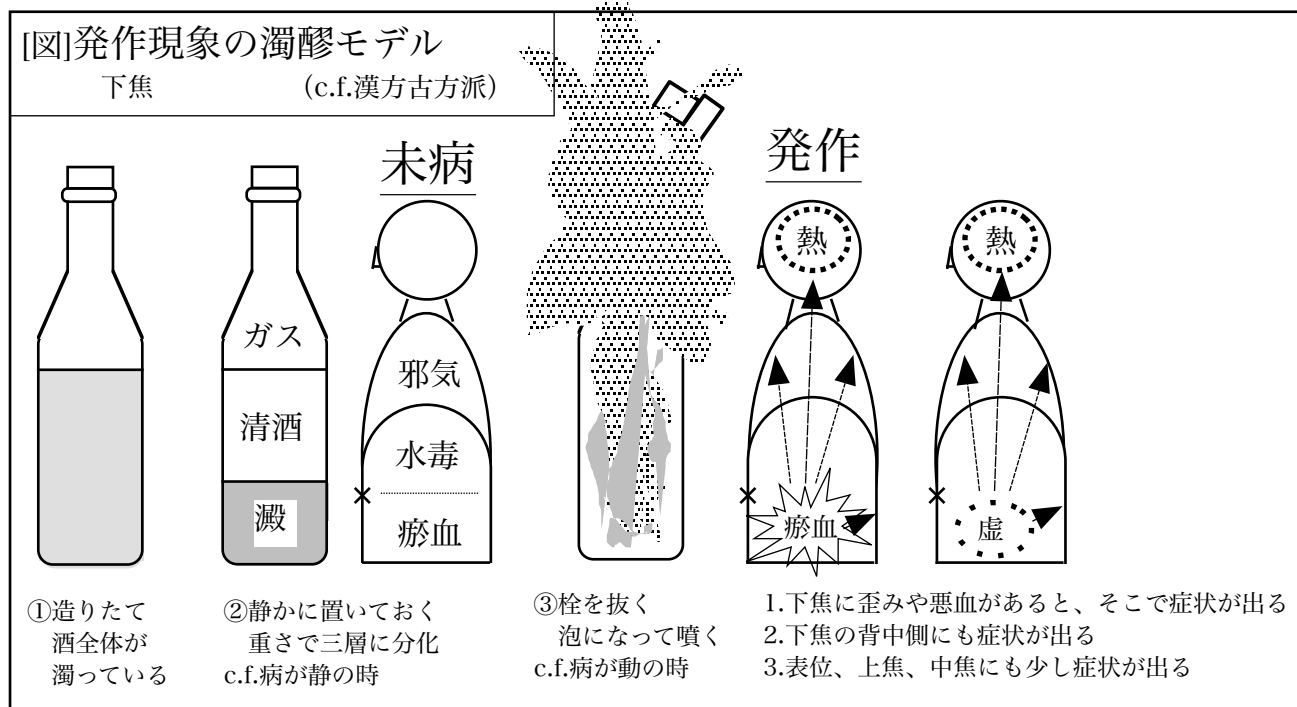


[17] 内科系急性期 4. 下焦：生理痛などの急性期



(1) 下焦の急性症状

- ① 下焦の歪み、瘀血や食毒などから邪気が噴出し、下焦部分で、激しい症状が出ている
- ② 表位、上衝、中焦にも熱などの症状が出るが、下焦の症状の方が激しい
- ③ 下焦の横輪切り、特に背中側にもツボが出るし、下焦に関係する手足陰経にもツボが出る
- ④ 下焦で動いている主な邪毒は、邪気・瘀血、たまに食毒
- ⑤ 邪気の発生源は、下焦の瘀血、食毒などで、慢性期にはそれらへの処置が必要

(2) 下焦の急性症状に対する基本処置

- ① 下焦から上で動いている邪気を体外に出し、上衝を鎮める→末端への引き鍼+表位の散鍼
- ② 下焦に関係する手足陰経に引き、横輪切りの、特に背中側に引く (ルート工作)
- ③ 手早い刺鍼が大切 (邪気の波が来終わった時点で刺鍼を止める)

(3) 実技と手順：姿勢は、患者さんがとっている姿勢が基本 (背を丸めた座位、横向き寝が多い)

・急性期の応急処置：体が大きく動くときは、接触鍼か鍔鍼

手甲(*1) → 手陰経・手首付近(*2) → 足(陰経→陽経)(*3) → 下焦背中側(*4) → 肩頸頭・散鍼 → 手甲

*1：頭のハチマキする辺りを触って熱い所に経絡的に関係するツボ

*2：主に、手甲刺鍼側の内関

*3：基本は足首から先。陰経は、中封、太衝、蠡溝など、接触鍼も可。陽経は内庭、足甲3-4など

*4：背を丸めて耐えているから、その背中側のいちばん出っ張った辺りにツボを探す

腰椎2～仙骨。現在は華陀経などが多い。左右差が大きい時は、腰徹腹も。

(☆) 応急処置後数時間以内に痛みが復活する時は、器質性病変を疑い、救急医療と連携